

第17回特別展示

絵巻・絵本ならびに版本の挿絵



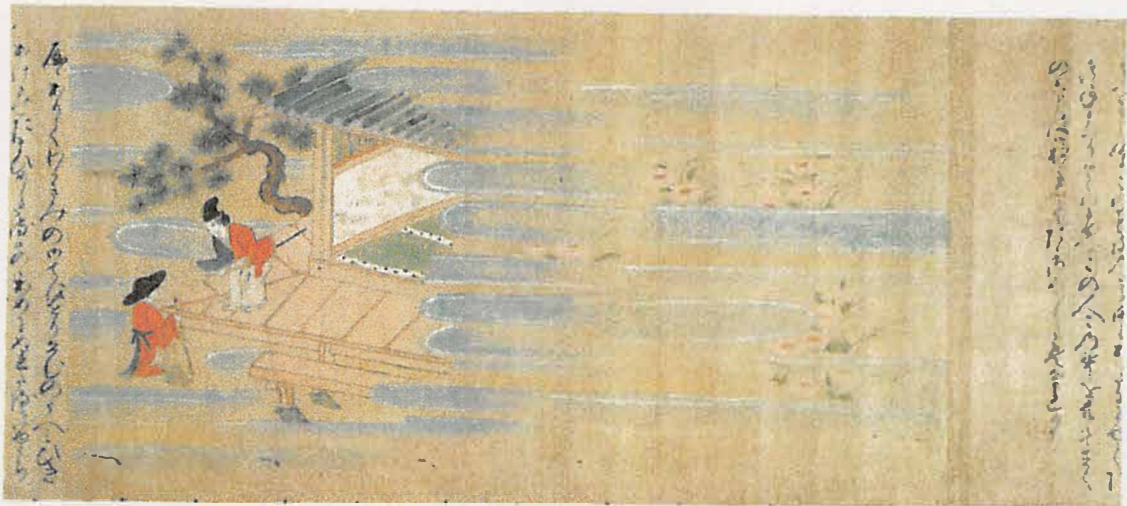
1 しつか (屏風)



2 しつか



3 転寝草紙



4 小敦盛



5 八幡大菩薩御縁起

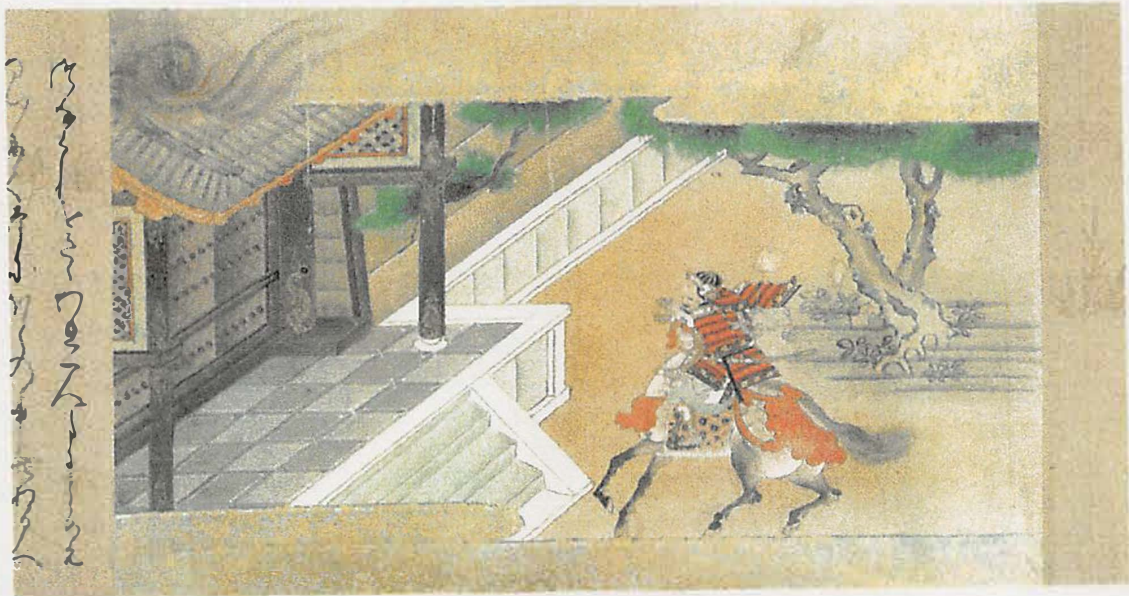


6 八幡大菩薩御縁起



大黒舞

7 大黒舞



羅生門

8 羅生門



9 十六夜日記



10 住吉物語



11 狭衣



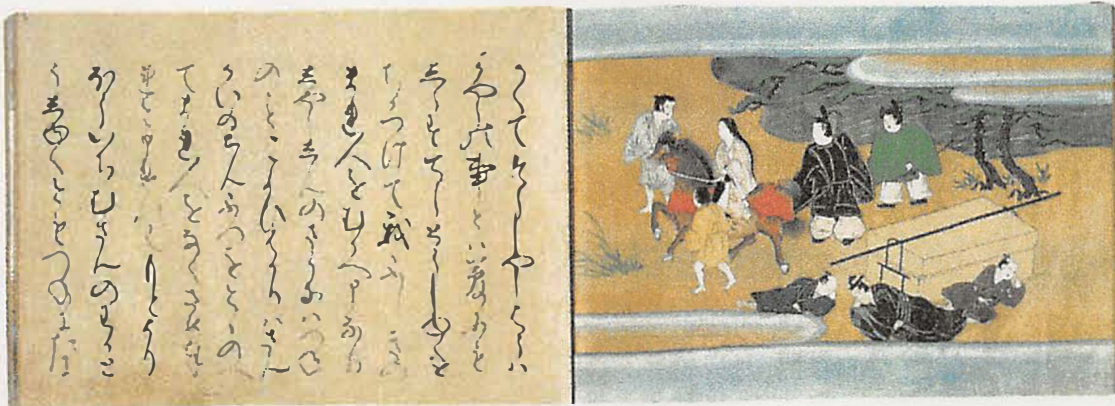
12 唐糸草紙



13 法妙童子



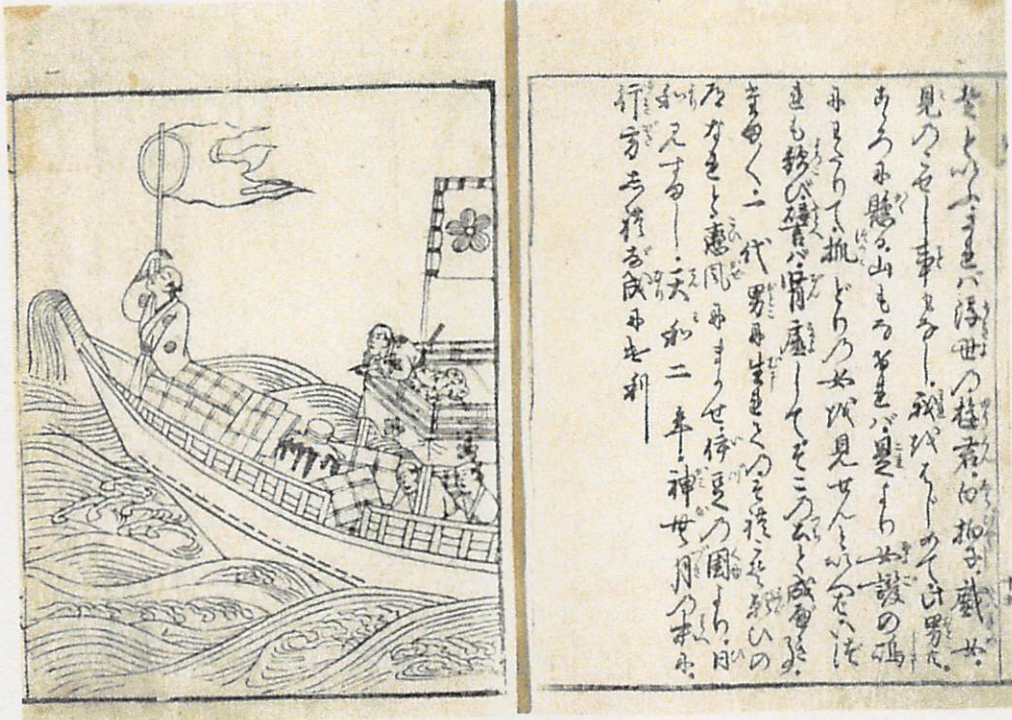
14 火おけのさうし



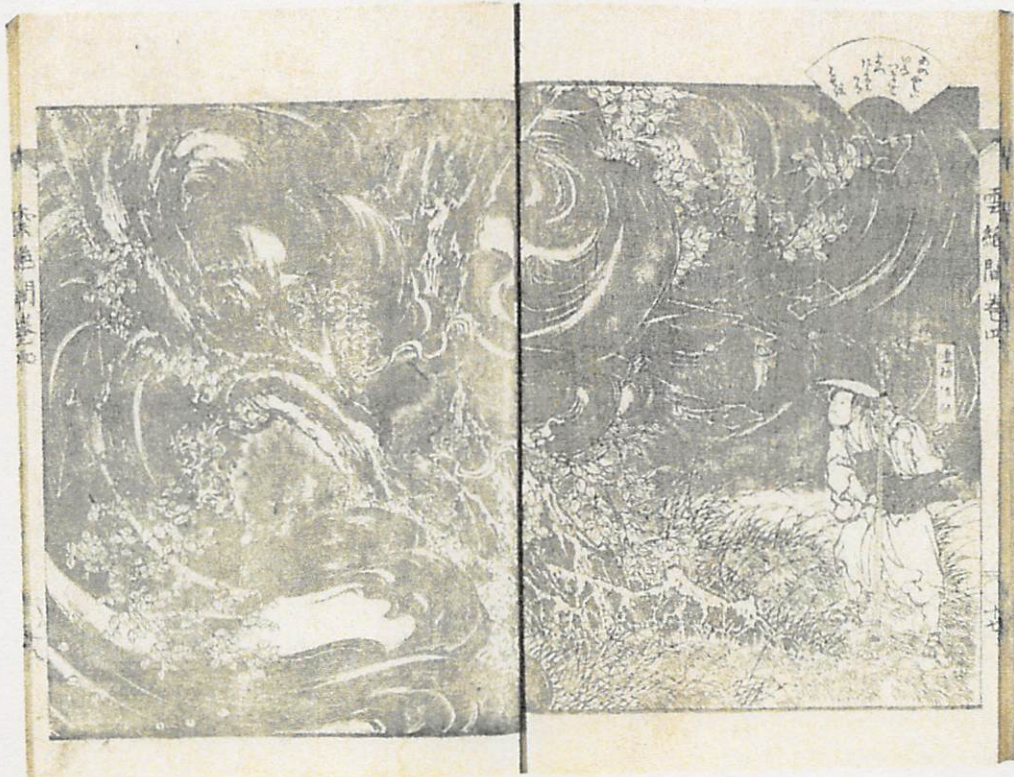
15 ささやき竹



16 曾我物語



19 好色一代男



23 雲妙間雨夜月



34 粹興奇人伝



45 鳥追阿松海上新話

は し が き

国文学研究資料館では、江戸時代以前の国文学を中心とする古典文献資料のマイクロフィルムによる収集を続けるかたわら、可能な範囲内で古典籍原本（写本・版本）の収集にも努め、併せて研究者の利用に供しております。

これらの古典籍原本を、「常設展示」（年四回。それぞれ約三ヶ月間）・「特別展示」（年一回。約二週間）として、一般に公開し、研究と普及のために微力を尽してまいりましたが、第十七回特別展示を十一月二日（月）より十四日（土）まで開催することになりました。

今回の特別展示のテーマは「絵巻・絵本ならびに版本の挿絵」で、五十余点を展示いたします。本展示が研究の進展に寄与することを期待する次第であります。

昭和六十二年十一月二日

国文学研究資料館長 小 山 弘 志

凡 例

一、この目録は、国文学研究資料館第17回特別展示「絵巻・絵本ならびに版本の挿絵」の展示資料解説目録である。

同展は、昭和六十二年十一月二日（月）より十四日（土）までの日曜祝日を除く十一日間、当館展示室において開催するものである。

一、解説は参考室が担当した。一々お断わりしなかったが、諸先学の研究に負うところが多く、記して感謝したい。

(一) 奈良絵本・絵巻

1	しつか	(図)	1
2	しつか	(図)	1
3	転寝草紙 <small>うたねくさし</small>	(図)	1
4	小敦盛	(図)	1
5	八幡大菩薩御縁起	(図)	1
6	八幡大菩薩御縁起	(図)	2
7	大黒舞	(図)	2
8	羅生門	(図)	2
9	十六夜日記	(図)	2
10	住吉物語	(図)	2
11	狭衣	(図)	3
12	唐糸草紙	(図)	3
13	法妙童子	(図)	3
14	火おけのさうし	(図)	3
15	ささやき竹	(図)	4

(二) 版本の挿絵

16	曾我物語	(図)	4
17	嶋原記		5
18	伽婢子		5
19	好色一代男	(図)	5
20	絵本徒然草		5
21	本朝諸士百家記		5
22	茶店墨江草紙 <small>さてんすみのえくさし</small>		6
23	雲 <small>くも</small> 妙問雨夜月 <small>たえまよのつき</small>	(図)	6
24	南総里見八犬伝		6
25	南総里見八犬伝		6
26	近世怪談霜夜星		6
27	絵本一休嘶		6
28	一休諸国物語図絵		7
29	滑稽五十三駅		7
30	茶番頓智論		7

48	高橋阿傳夜刃譚	11
47	東京奇聞	10
46	夜嵐於衣花廻仇夢	10
45	鳥追阿松海上新話	10
44	白縫譚	9
43	北書時代加々見	9
42	修紫田舎源氏	9
41	兩個嬌姿嫩	9
40	兄弟丸時繪文箱	9
39	敵討安達太郎山	9
38	九替十年色地獄	8
37	人間一生胸算用	8
36	春色梅美婦禰	8
35	艶麗処女七種	8
34	粹興奇人伝	8
33	安愚楽鍋	7
32	西洋道中膝栗毛	7
31	花江戸客者評判記	7

49	沢村田之助曙草紙	11
50	狂歌桧葉集	12
51	手毎の花	12
52	蜀山人狂歌図会	12
53	狂歌百人一首	12
54	波津加蛭子	12
55	繪本時世粧	13

(一) 奈良絵本・絵巻

- 1 しつか 奈良絵本貼付屏風 六曲一双 縦八四・四×横二五七・七糎 江戸初期写 99・17
幸若舞曲「しつか」を奈良絵本仕立にしたものを貼付。一面一五ないし一六行。一行約一六字。絵は現存一八面。貼付の都合上、絵は原位置でなく、適当に散らしてあり、省略もある。本文は揃っているが、一部に貼り違えもある。
- 2 しつか 縦二九・八×横二一・五糎 江戸前期写 二冊 99・32
紺地に金泥で草木を描く紙表紙。中央に「しつか上(下)」と記す朱題簽を貼る。袋綴。料紙は鳥の子、金泥草木の下絵が入る。墨付、絵ともで上冊二三丁、下冊二四丁。各冊一面一〇行、一行約一九字。絵は上冊七図(うち、三、一四図は見開き)、下冊七図(うち六、七図は見開き)。幸若舞曲を奈良絵本にしたもの。
- 3 転寝草子^{うたたねぞうし} 縦一五・三×全長六七一糎 室町末期写 一軸 99・30
茶色地に菊、宝珠等を織り出した金欄表紙。料紙は斐楮の交漉きで間似合で裏打ちがなされいる。絵は四図。
- 4 小敦盛 縦二八・二×全長・上巻六七〇、下巻七四六糎 室町末期写 二軸 99・31
紺地に金箔散らし、銀泥で霞等を描く紙表紙。料紙は楮紙。本書に存する錯簡を正せば、『室町時代物語大成』所収の赤木文庫蔵「小敦盛絵巻」と顕著な相違はなく、絵の位置も対応する。現在、上巻一四紙、下巻一九紙。この番号により錯簡を正すと、上1〜上11、下1〜下5、上12〜上14、下6〜下19の順となる。
- 5 八幡大菩薩御縁起 縦二七・五×全長一三八九糎 文正元年写 一軸 99・29

紺地に瑞雲、菊花、法輪の模様の入る緞子表紙。料紙は楮紙。奥書に「奉寄附大日本国周防国吉敷郡□□□□（貼紙に「吉敷郡秋穂郷」とある）今八幡大菩薩御宝殿者也施主心中求願一々皆令満足故也 于時文正元年丙戌十二月二日施主敬白」と記す。絵九図。「室町時代物語大成」所収の同じ甲類に分類されている「享祿絵巻」と比較すると、第八図を欠く。冒頭約四五〇字、中間約一一〇〇字が欠落し、多小本文の乱れた箇所が存する。

6 八幡大菩薩御縁起 縦二九・六×全長・上巻五三一、下巻八四六纏 承応二年写 二軸

ヨ 1
37

紺色の紙表紙。「八幡宮絵縁起乾（坤）」と記す題簽を貼る。料紙は楮紙。絵は上巻七図、下巻六図。奥書に「承応貳年巳九月吉祥日 頼尊写 大安寺村市兵衛」とあり。

7 大黒舞 縦三三・三×全長・上巻一一九一、下巻一〇七五纏 江戸前期写 二軸

99・66

縹色地に花唐草模様の金襴表紙。「大こくまひ上（下）」と記す朱題簽を貼る。料紙は金泥下絵の入る鳥の子。絵は上巻六、下巻五図。

8 羅生門 縦三〇・八×全長・上巻一三〇八、下巻一三三三纏 江戸中期写 二軸

99・43

紺地に鳳凰・牡丹唐草を配す金襴表紙。「羅生門物語上（下）」と記す鶯色に金箔を散らす題簽を貼る。料紙は金泥下絵の入る鳥の子。絵は各巻五図。下巻末尾に「市丞朝倉氏重賢書之」と記す。

9 十六夜日記 縦二三・四×横一七・〇纏 江戸初期写 二冊

99・21

浅黄地に、菊・牡丹・龍を織る金襴表紙。左賢に「十六夜物語上（下）」と記す、金泥引きの題簽を貼る。列帖装。料紙は鳥の子、まま金泥で竹を描く下絵が入る。上冊二三丁、下冊二六丁。一面二〇行、一行約二〇字。淡い彩色のされた奈良絵風の絵が、上冊五図、下冊四図入る。下冊に補字あり。十六夜日記（阿仏尼作）の別題の伝本。

10 住吉物語 縦二八・九×横二三・八纏 江戸前期写 三冊

99・39

紺地に金泥砂子、金切箔を散らす紙表紙（破損し、上冊のみ、その姿を残す）に後補の楮紙を貼付した表紙。各冊中央に「住吉物かたり上」「すみよし物語中」「墨よしもの語下」と直書。袋綴。料紙は鳥の子。墨付、絵ともで上冊二三丁、中冊三三丁、下冊二四丁。上冊、一面九行、一行約一七字。中冊、一面九行同上と、一〇行二三字程。下冊、一面九行同上、一〇行同上、そして一一行二三字程。絵は上冊七図（六、七図は見開き）、中冊六図、下冊八図。

11 狭衣 縦一七・〇×横二五・六 糶 江戸初期写 一冊（下冊のみ） 99・40

斜めに二分され、上方は黄土色、下方は青鼠色に銀箔散らしの紙表紙。袋綴。料紙は鳥の子。墨付一二丁。一面一五行、一行約一五字。絵は五図。印記「岡田真」ほか。

12 唐糸草紙 縦三〇・〇×横二二・〇 糶 江戸前期写 二冊 99・14

紺地に金泥で草木を描く紙表紙。中央に「からいと上（下）」と記す、金泥で草木を描く朱題簽を貼る。袋綴。料紙は鳥の子、金泥下絵。墨付、絵ともで上冊一四丁、下冊二三丁。各冊一面一〇行、一行約二〇字。絵は各冊六図。

13 法妙童子 縦二九・〇×横二三・七 糶 江戸前期写 三冊 99・15

紺地に金箔散らし霞引に、上冊は梅、中冊は松に帆、下冊は秋草を金泥で描く紙表紙。左肩に「ほうみやう童子上（下）」（中冊は題簽欠）と記す、青色地に秋草（上冊）、松（下冊）を描く題簽を貼る。袋綴。料紙は鳥の子、金泥下絵。墨付、絵ともで上冊一七丁、中冊二二丁、下冊二〇丁。各冊一面一一行、一行約一八字。絵は上冊七図（うち、一、二図は見開き）、中冊八図、下冊六図。

14 火おけのさうし 縦一八・二×横二五・七 糶 江戸前期写 二冊 99・16

紺地に金泥で杜若、水草を描く紙表紙。中央に「ひおけのさうし上（下）」と記す、金泥で小松を描く朱題簽を貼る。袋綴。料紙は鳥の子。墨付、上冊一二丁、下冊一二丁。各冊一面一五行、一行約一五字。絵は上冊四図、下冊三

図。印記「鴻山文庫」。

15 ささやき竹 縦一六・九×横二四・三 糰 江戸前期写 三冊

99・31

紺地に金銀泥で雲引き、草木を描く紙表紙。中央に「さ、やき竹上(中・下)」と記す朱題簽を貼る。袋綴。料紙は鳥の子。墨付、絵ともで上冊二四丁、中冊二四丁、下冊三三丁。一面二二行、一行約一二字。絵は各冊六図。

(二) 版本の挿絵

16 曾我物語 縦二七・〇×横二〇・〇 糰 元和寛永中古活字版 組合せ式挿絵入 一二冊 図版参照 99・47

藍色地雷文格子に花模様の空押表紙。中央に「曾我物語一(一十二)」と書く題簽が一部残存する。袋綴。料紙は楮紙。各冊は巻一、七八丁(絵二六図)。巻二、五二丁(絵二六図)。巻三、四五丁(絵二六図)、但、一八丁裏の絵と末尾の絵は同一)。本冊は目録部を半丁破損し、その処理のために見返しは「そがへつれてかへりよろこびし事」の一行だけとなっている。巻四、五五丁(絵一七図)。巻五、六六丁(絵一八図)。巻六、五〇丁(絵一八図)、但、乱丁部分あり。巻七、四九丁(絵一五図)。巻八、五〇丁(絵一五図)。巻九、五二丁(絵三三図)。巻十、三五丁(絵一一図)。巻十一、三二丁(絵一一図)。巻十二、三三丁(絵一一図)。一面十二行、一行二一字。印記「青谿書屋」「月明荘」。赤木文庫旧蔵。

〔仮名草子、浮世草子など〕

17 嶋原記 大 三卷三冊

仮名草子。書題箋「嶋原根元記」

ナ 4

18 伽婢子 大 一三卷七冊（一〇、一一卷欠）

仮名草子。浅井了意著。題箋「御伽はうこ」

ナ 4

序「于時寛文六年丙午正月日 瓢水子松雲処士自序」 序「寛文六年竜集丙午正月下幹 雲樵」 刊記「文政九年

丙戌正月補刻 書林、前川六左衛門 丁子屋平兵衛」 藏書印「南葵文庫」

19 好色一代男 大 八卷八冊を一冊に合綴 図版参照 99・23

浮世草子。井原西鶴作 挿画西鶴。本文版下水田西吟筆、刊記「天和二戌年陽月中旬／大坂思案橋荒砥屋孫兵衛可心板」。保存良好で、現存の『好色一代男』の中で最善本の一つ。荒砥屋版の初摺の中でも最も早いもの。

20 絵本徒然草 大 三冊 夕 5 63

序「元文戊午のとし冬洛陽文花堂」 卷尾に「皇都画工文華堂 西川祐信（印）」とあり。刊記「元文五年申正月

吉日 京寺町通松原下ル町 書林菊屋善兵衛版」

21 本朝諸士百家記 前集 大 一〇卷三冊 ナ 4 62

浮世草子。錦文流著。「扉」近來正説聞書 前集／本朝諸士百家記／浪華書林 松寿堂藏版」 自序「本朝諸士百家

記序……于時宝永第五乃天孟春中旬浪華津詠諧僧文流撰之」

〔読本〕

22 茶店墨江草紙 半 八卷九冊

読本。栗杖亭鬼卯作 浅山あし洲画。表紙見返しに「栗杖亭鬼卯校 浅山あし洲画／茶店墨江草紙／書肆 狂画堂

松庇閣梓」とあり。扉「復仇奇談住江草紙」 卷尾（卷之八）に出版広告「○絵本蔵版目次 皇都書林三条街吉野屋

仁兵衛」あり。

23 雲妙間雨夜月 半 五卷六冊 図版参照

読本。曲亭馬琴作 歌川豊広画。表紙見返しに「曲亭主人著 戊辰全本五冊／雲妙間雨夜月／新鐫 柏栄堂蔵

一柳斎豊廣画」 刊記「文化五年戊辰正月吉日發販 江戸 神田通錦町 柏屋半蔵（他）」

24 南総里見八犬伝 半 第八輯卷一 一冊

読本。曲亭馬琴作 柳川重信画。天保三年如月自序、天保四年癸巳春正月發行。版元 江戸小伝馬町三丁目 丁子

屋平兵衛 他。

25 南総里見八犬伝（第八輯卷一） 稿本一冊

曲亭馬琴作稿本の複製（稀書複製会）

26 近世怪談霜夜星 半 五卷五冊

読本。柳亭種彦作、葛飾北斎画。卷尾（卷五）に「かつしか北斎画 柳亭種彦作」とあり。刊記「文化五年戊辰春

正月吉日 書林 皇都植村藤右衛門 浪華河内屋太助 東都若林清兵衛 山崎平八」

27 絵本一休噺 半 五卷五冊

読本。

ナ・ 4 26

ナ・ 4 9

ナ・ 4 14

ニ・ 4 229

ナ・ 4 47

ナ・ 4 157

28 一休諸国物語図絵 大 五卷五冊 拾遺二冊

ナ・4
16

読本。平田止水著、菱川清春画。表紙見返し「慶応乙丑補刻／平田止水居士輯 源基定補正／一休諸国物語図会全部五冊」
／五書堂合梓

卷尾（卷五）に「平田止水居士輯 源基定補正 菱川清春画」とあり。

刊記「天保七丙申正月新刻慶応元乙丑年十月補刻 発兌書林 大阪心齋橋通本町東入 河内屋真七（他）」

〔滑稽本〕

29 滑稽五十三駄 中 二三冊

ナ・4
162

滑稽本。十返舎一九作、画。題箋「東海道中膝栗毛」扉「東海道中滑稽膝栗毛／十返舎一九作画」

30 茶番頓智論 中 一冊

ナ・4
84

滑稽本。菊莊、青梧等画。廓遊舎藏。序は紫道人、窓月。藏書印「青洲文庫」

31 花江戸三芝居客者評判記 横中 三卷三冊

ナ・4
227

滑稽本。式亭三馬作。題箋「三芝居客者評判記」上卷十一丁裏に「文政六ひつじの春再校 作者三馬」とあり

32 西洋道中膝栗毛 中 二四冊

ハ・4
1

滑稽本。仮名垣魯文、総生寛作、一恵斎芳幾、立斎広重等画。角書「万国航海」。明治三十七年、万笈閣刊。

33 安愚楽鍋 中 五冊

ハ・4
4

滑稽本。仮名垣魯文作、一恵斎芳幾、惺々咲斎画。角書「牛店雑談」、別名「奴論建」。

明治四十五年、誠之堂刊。

34 粹興奇人伝 中 一冊 図版参照

ナ 4
358

嘶本。仮名垣魯文、山々亭有人作、春廼屋幾久校合、一忠齋芳幾画。文久三年、宝善堂・丸屋徳藏刊。
三題嘶を再興した「粹興連」「興笑連」のメンバーの画像、伝記、それぞれの創作した三題嘶を掲出している。
瀬川如皐、木知ら雪、河竹其水、仮名垣魯文、山々亭有人、立川談志、三遊亭圓朝など二十三名である。

〔人情本〕

35 秋色艶麗処女七種 中 初編―七編（各編上中下三卷）七冊

ナ 4
149

人情本。初―五編、狂訓亭為永春水作。六、七編、梅亭金鷲著、溪斎英泉画。初編序「天保七申の初秋 桃林亭太
疏」五編下巻の巻末に「東都書林 小伝馬町三丁目文溪堂丁子屋平兵衛板」とあり。

36 春色梅美婦禰 中 二編（卷之四―六）、四編（卷之十一―十二）、五編（卷之十三―十五）、三冊

ナ 4
156

人情本。為永春水作。題箋「梅美婦祢」「梅見廻船」

〔黄表紙、合巻〕

37 人間一生胸算用 中 中下二巻（上巻欠）二冊

ナ 4
83

黄表紙。山東京伝作、画。寛政三年刊。絵題箋（下巻）「京伝戯作 通油町葛屋板 亥春新鍋 悪魂後編
生胸算用 下」下巻尾（一五丁裏）に「京伝戯作 自画」とあり。

38 九替十年色地獄 中 上下二巻（中巻欠）二冊

ナ 4
123

黄表紙。山東京伝作、鳥居清長画。寛政三年、鶴屋刊。序「狂伝和尚／廓中法語 九替十年色地獄自序……寛

政みつ亥の春 山東京伝述」 上巻第一丁表上欄に鶴屋の商標あり。下巻尾(一五丁裏)に「京伝戯作 清長画」とあり。

39 敵討安達太郎山 中 一卷一冊 ナ 4 142

合巻。式亭三馬作、歌川豊広画。文化三年刊。第一丁表に「三馬著述当春新版書目」があつて、「西宮開版」復讐安達太郎山 全部五冊」「敵討安達太郎山 五冊 豊広画」など記載あり。全二五丁(五冊もの)のうち、一二丁、二五丁を欠く。蔵書印「南葵文庫」。

40 兄弟丸蒔絵文箱 中 三巻三冊(全三十丁) ナ 4 86

合巻。墨川亭雪磨作、歌川国貞画。天保一二年、山本平吉刊。序「……天保一二辛丑年孟春発行 墨川亭雪磨」

巻尾(第三〇丁裏)「香蝶楼国貞画墨川亭雪磨作」裏表紙見返し、出版広告に「天保一二辛丑春新稗史 地本錦絵問屋江戸よし町親仁橋角 栄久堂山本平吉版」とあり。

41 兩個孀姿 後編(前編欠) 一冊 ナ 4 130

合巻。墨川亭雪磨作、歌川国貞画。表紙「姿の嫩」全部六冊 雪磨作 国貞画「表紙裏」兩個孀後編 癸未新板

稗史 雪磨作 国貞画 山本 江戸よし町親仁橋」巻尾「墨川亭雪磨編」

42 紫田舎源氏 中 初編—三八編(各編上下二冊—二〇丁—合一冊) ナ 4 229

合巻。柳亭種彦作、歌川国貞画。文政一二—天保一三年、鶴屋喜右衛門刊(初編—五編は天保三年の再版)

43 北雪時代加々見 中 初編—三四編(各編上下二冊—二〇丁) ナ 4 40

合巻。為永春水(二世)作、歌川国貞(二世)等画。嘉永八—元治元年、若狭屋与市等刊。

44 白縫譚 中 初編—六七編(五九、六〇編欠)、各編上下二冊(二〇丁)、二編を一冊に合本、三三冊 ナ 4 122

合巻。柳下亭種貞、柳亭種彦（二世）、流水亭種清作、歌川豊國、歌川國貞（二世）、一惠斎芳幾画。嘉永二年—明治一四年、藏岡屋慶次郎、柳下亭、広岡屋幸助等刊。藏書印「青洲文庫」。

45 鳥追阿松海上新話 中 初編—三編（各編三冊、各冊九丁） 図版参照

ハ・4
18

合巻。假名垣魯文閣、久保田彦作、陽洲斎周延画。明治十一年二月—三月刊。版元は錦榮堂 假名読新聞の雑報欄に明治十年十二月十日（五四〇号）からこの年一月十一日（五六二号）まで十四回にわたって連載された毒婦鳥追阿松の記事をまとめたもの。明治元年の春から十年二月九日、阿松の死に至る悪業の実録である。ルビ付き漢字をはじめて使用し読むことを中心とした所謂、明治合巻の嚆矢とされる。もともになった新聞記事との関係にも注目したい。

この合巻は評判がよく、早速、明治十二年五月、大阪の戎座でこの書名と同様の外題で上演された。

46 夜嵐於衣花迺仇夢 中 初編—五編（各編三冊、各冊九丁）

ハ・4
17

合巻。芳川俊雄画、岡本勘造作、永島孟齋画。明治十一年六月—十一月刊。版元は金松堂辻岡文助

毒婦夜嵐阿衣は俳優嵐璃鶴（後、市川権十郎）を懲役に陥れたことで悪名高いが、明治五年二月二十日、獄門さらし首となった。この事件はさきがけ新聞の明治十一年五月二八日（第三百二十号）より実録として雑報欄に連載されたが金松堂の希望により合巻に仕立られた。

47 東京奇聞 中 初編—七編（各編三冊、各冊九丁）

ハ・4
20

合巻。芳川俊雄画、岡本勘造作、櫻齋房種画。明治十二年二月一日—四月一五日刊。版元は鳥鮮堂・網島亀吉

毒婦高橋おでんは、この年一月三十一日、東京裁判所において斬罪申しつけられ同日処刑された。東京新聞は翌二月一日（五百廿八号）よりおでんの一代記を連載し始めたが、新聞紙は散逸しやすく、伝記も連載では切々で読みにくいので新聞記者の丹誠の記事を残すためにも冊子に仕立て挿絵を加えた……と初編の序文（芳川俊雄）にある。し

かし、この出版は『高橋阿伝夜叉譚』(別掲)と競合して行われ、七編の序文にも「類板の世に出るを以書肆其発兌を急ぎ全部七帙僅か六旬にして業を卒ふ」と述べている。新聞ニュースによる際物の合巻として両者出版のスピードを競ったのである。

48 高橋阿傳夜叉譚 中 八編二十四冊(五、六、八編欠)

ハ・4
19

合巻。仮名垣魯文作、守川周重画。初編本文は活版刷り、他は木版。(丁数は初編中、下の八丁以外は九丁。)明治十二年二月一三日—四月二三日刊。版元は金松堂・辻岡文助。書名は初編の内題のみ「……夜叉譚」。

毒婦高橋おでんは明治九年八月二十六日夜、浅草御蔵前の旅人宿で後藤吉蔵を殺害した罪で捕えられ明治十二年一月三十一日、東京裁判所にて斬罪を申し付けられた。仮名読新聞(社長、仮名垣魯文)は翌二月一日、二日とお伝の悪業を報ずる連載記事を出したが四日には連載を中止して絵入読本(合巻)として出版する旨断っている。これは岡本起泉の『東京奇聞』(別掲)出版への対抗処置であった。本書は速成するため初編は本文の部分は活字版であったが、木版の場合よりは多くの文字が組めるので短時間の間に長文の原稿を作らねばならず、また挿絵と本文との連携に失敗し、急いだため印刷の校正にも不手際があつて第二編よりは木版に変更した。草双紙合巻をはじめ活字印刷の技術を導入して速成しようとした努力と失敗の作品である。

49 沢村田之助曙草紙 中 初編—五編(各編三冊、各冊九丁)

ハ・4
7

合巻。芳川春濤関、岡本起泉作、揚洲周延画。明治一三年七月—十一月刊。版元は島鮮堂・網島龟吉。

名優三代目沢村田之助(家号紀伊國屋、俳名曙山)の一代記。沢村田之助は舞台での傷がもとで脱疽で右足を切断し、それでも舞台を勤めたが、明治十一年七月七日、三十四歳で歿した。その役者追善草紙である。

〔狂歌絵本〕

50 狂歌松葉集 半 春^上 夏 秋^下 冬 恋之部 七冊

狂歌絵本。松園梅明撰

51 手毎の花 中 一卷一冊

狂歌絵本。文の屋茂喬編。琦鳳 応震 白瑛 秀成 等画。序「賀茂季鷹」 序「文化九かへりの春 文の屋茂

喬しるす」 刊記「文化九年申正月刻成、皇都書肆 三条通柳馬場二入北側 吉田屋新兵衛」

52 蜀山人狂歌図会 小 一卷一冊

狂歌絵本。大田南畝詠 歌川貞房画。題箋「蜀山人狂歌図会 初編全」 扉「蜀山人／狂歌図会 全／芸香堂」

刊記「書林 江戸両国米沢町 釜屋又兵衛 大坂心齋橋筋順慶町 柏原屋儀兵衛」

53 狂歌百人一首 半 一卷一冊

狂歌絵本。萩屋音信撰、柳川重信画 序「……時は天保十とせきさらきつきたちの日かくいふは萩の屋のあるし神

風音信」 扉に「萩の屋撰 狂歌百人一首 伊勢津万代廻屋 日枝屋興信」 扉裏に「萩屋音信大人撰 柳川重信大

人画 狂歌百人一首 伊勢浜萩連蔵」とあり。

54 波津加蛭子 半 二卷二冊

狂歌絵本。六樹園宿屋飯盛撰 一九 一向舎画。序「……宿屋飯盛しるす」 巻尾に出版目録「江都書林衆星閣蔵

蔵板目録 翔町平川町二丁目書物問屋 角丸屋甚助」あり。

ナ・ 47

ナ・ 177

ナ・ 30

ナ・ 46

ナ・ 40

〔錦絵絵本〕

55 絵本時世粧えほんときよすがた 半 乾坤二冊中の乾 小田家寄託書

絵本。初代歌川豊国画、式亭三馬関。「……こゝ、にもものせる時世粧イマヨウスカケてふふみは、たときよりいやしきまで、あるとある女メのかたち、よしあしのさまを、空みつやまと画にうつし、とりかなくあつま錦ニシキに、すり出たる物にそありける……」(式亭三馬序)とある。刊記「享和二稔壬戌春王正月発兌／芝神明前三島町 東都書林 甘泉堂和泉屋市兵衛蔵版」

国文学研究資料館特別展示目録 11

絵巻・絵本ならびに版本の挿絵

昭和六十二年十一月一日 発行

編集 国文学研究資料館

整理 閲覧部参考室

発行 国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町一―一七―一〇

TEL 〇三―七八五―一三一

印刷・製本

株式会社 三協社

〒164 東京都中野区中央四―八―九

TEL 〇三―三八三―七二八一

ISBN4-87592-024-5